

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 60	福山市立川口東小学校
最終更新日		2022年(令和4年)2月 日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の学びに向け、子どもが主体的に学ぶ場を意図的に設定していくことを続けてほしい。 教職員の元気＝児童生徒の元気である。一人一人が個性的な時代であり、全員(教職員及び児童生徒)が充実した時間になるよう努めてほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の授業や行事等を通して、児童生徒自身が、学び方を決定したり、企画等を考え・実行したりしている。 児童生徒の「なぜだろう」「やってみよう」といった意欲が向上している。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見する力(課題を見つける) 対話する力(コミュニケーション) 認める態度(人としての思いやり)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒 <p>○「学校・子どもはこうあるべきだ」といった価値観や固定観念を問い直す</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な価値観で子ども一人一人の学び姿をみる。 <p>○自分が“考えて、決める、選ぶ”</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で方法を決めて課題解決に取り組んだり、議論したりする。
--	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>子どもたちが、主体的に未来社会を拓く力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学ぶ力」「考え表現する力」「向かう力」を育てる。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p>	<p>課題を見つける力(自己決定) 対話をする力(コミュニケーション) 認め合う態度(思いやり)</p>
<p>学校教育目標</p> <p>夢が語れ 誇りを持ち 社会に貢献できる子どもの育成</p>	<p>課</p>	<p>明確な目標をたて、その目標にせまる学び方を自ら見だし解決に向けて方法をさぐる。</p>
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 次の3つの項目については、「やりなさいと言われなくても自分から進んで勉強している」72.6%、「課題についてなぜだろう、やってみようと思う」77.4%の児童が当てはまると回答した。自分で課題を見つけたり、解決方法を選択したりする力に課題がある。 児童アンケートでは次の項目について、「学校へ行くのは楽しい」87.3%、「授業で考えることがおもしろい」94.0%、「自分の考えは認められている」93.7%の児童が当てはまると回答した。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、児童同士の考えを伝え合ったり、自己肯定感を高めたり、学ぶ楽しさを感じたりする児童が増えている。 特別活動を中心に、自分の生活を振り返ったり、自己決定や折り合いをつける場を増やしたりすることで、学んだことを意識したり、具体的な目標を明確に持ったりして行動する児童が増えてきた。 早寝、早起き、朝ご飯等、基本的な生活習慣が身につけていない児童が多く、欠席や遅刻をする児童が多い。 	<p>めざす子ども像</p> <p>対</p> <p>認</p>	<p>課題や問題解決のために自己の経験などから意見を伝えたり、他者と対話することで考えを評価したり、深めたりして互いの考えを生かし合う。</p> <p>自己の考えや思いについて自信を持ったり認めたり、他者の思いや立場を尊重し、互いに高め合うことができる。</p>
	<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p>	<p>よりよい自分や集団をめざして</p> <p>主体的・協働的に取り組む授業づくり ～特別活動と道徳科を中心として～</p>
	<p>めざす授業の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料をもとに課題を見つけ、自分の考えや意見を持って、授業に臨んでいる。 自分の考えを根拠を明確にして伝えたり、異なる考えを受入れ、認め合ったりしている。

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	力以評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力以評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	主体的に協働しながら学習に取り組む児童を育てる。	★	継続	考える場、選ぶ場を授業の中で設定し、学び合いを通して、思考力、表現力、判断力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> • 考えの過程を、根拠となる数や式、言葉や叙述、図などを用いてかき、考えを説明する時間を設ける。 • ノートの交流を行うとともに、定期的に持ち帰らせ、保護者に学習状況を伝えていく。 • 基礎・基本の学力向上のために、学習内容を振り返る時間の確保と家庭学習の工夫に取り組む。 	次の項目の肯定的評価80% ①「授業で考えることが面白い」 ②「自分で課題を見つけ、いろいろな方法で取り組んでいる。」 ③「理由や根拠を明らかにして考えを書いたり話したりしている。」	<ul style="list-style-type: none"> • 自力解決場面で根拠となる数や式、言葉や叙述、図などを用いて書き、考えを説明する時間を設けた。 • ノート交流研修を行い、思考の見取りについて認識を共有し、授業に生かすことができた。ノート持ち帰りが未実施。 • 高学年中心に予習などにも取り組んだ。 【児童回答】 ①80.1% ②76.5% ③78.6%	3	3	<ul style="list-style-type: none"> • 引き続き、考えの過程を書き、説明する時間を設ける。 • ノート交流を学年で月に1回以上行う。 • ノートの持ち帰りをを行いコメントをもらうことで、意欲付けにつなげる。 • 予習を活用した授業展開を行う。また、ICTを活用した家庭学習の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> • 算数などにおいて、自力解決場面で根拠となる数や式、言葉や叙述、図などを用いて書き、ペアやグループで考えを説明する時間を設けた。 • ノート交流研修を全体で学期1回、学年で月1回以上行った。ノート等の持ち帰りと保護者コメントも実施した。 • 中・高学年において、社会や算数で予習をもとにした授業展開に取り組んだ。 【児童回答】 ① 83.3% ② 84.0% ③ 81.4%	3	4	4	自分の考えを根拠や理由をもとに書く・表現する活動を引き続き行う。 児童の意欲を高める授業展開や評価をしていく。 授業につながる家庭学習の工夫を行う。
2	自己肯定感・自己有用感がもてる児童を育てる。		継続	自分の行動を振り返ることができる児童を育てる。(自己肯定感)	<ul style="list-style-type: none"> • 学年に応じて、個人で目標を立てて取り組み、学期に2回振り返りを行う。(自己評価) • 自分の考えを伝え合い友だちの考えを聞く場を設定する。(相互評価) 	次の項目の肯定的評価90% ①「自分が成長した・できることが増えたと思う」 ②「友だちの良さを見つけ、それを伝え合うことができた」	学期2回振り返りを行い、自己評価・相互評価を行った。縦割り班活動などの異学年の交流の中で、自己肯定感の高まりが見えた。 【児童回答】 ①90.4% ②81.9%	3	3	<ul style="list-style-type: none"> • 左記の取組みを継続させるとともに、学校行事や縦割り活動を中心に異学年交流の中でお互いを認め合う場面を増やす。 	①40周年記念音楽発表会や運動会など、学校行事において、できるだけ多くの児童が役割を持てるように工夫した。 ②コロナ禍の中、できる限り異学年との交流を行い、お互いが成長を実感できるように取り組んだ。 【児童回答】 ①91.6% ②79.5%	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> • 児童が主体となり、行事の運営をしていく取組を継続していく。 • 自分の考えを伝え合ったり、自分の成長を振り返ったりする授業を通して、お互いの良さを認め合えるようにしていく。

			<p>学校や人のために行動しようとする児童を育てる。 (自己有用感)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動を生かした主体的な活動を継続実施する。 ・児童が創意工夫して自主的・実践的に取り組むことのできる係活動、委員会活動を計画実施する。 	<p>次の項目の肯定的評価90%</p> <p>①「係活動、委員会活動に進んで取り組んでいる」</p> <p>②「めあてをもって学級活動や学校行事等に取り組んでいる。」</p>	<p>特別活動では児童の必要感からスタートして「議題設定」を行うように取り組んだ。各学級で係活動、委員会活動へのさらに主体性を高めるとともに、自己有用感につなげる工夫が必要である。 【児童回答】 ①87.7% ②85.4%</p>	3	3	<p>学校行事等を通して一人一人の児童が、自己を振り返る時間を十分に確保するとともに、それを共有することで次の活動に対する意欲や、人のために行動しようとする意識を高める。</p>	<p>① 児童会の「縦割り班リレー」や放送委員会の「冬の曲紹介」等、活動が制限される中でも、工夫して主体的に活動できるようになってきた。活動もあった。</p> <p>②各学年で学級会を行い、話し合うことで、めあてを持って学級活動や学校行事に取り組むことができた。</p> <p>【児童回答】 ①92.3% ②85.7%</p>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体となるように工夫し、活動している。 ・児童に活動のスケジュールを管理させるなどして、責任感を育てている。
2	<p>体力づくり、生活習慣を自ら見直し、改善しようとする児童を育てる。</p>	継続	<p>課題をみつけ、自ら体力づくりに取り組む児童を育てる。 (体力づくり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会が中心となり、外遊びを促して体力を高める。 	<p>「週4回以上外遊びをしている」評価100%</p>	<p>体育委員会で遊びの紹介を行った。感染状況の悪化で、外遊びのできない状況があったため、外遊びの機会が少なかった。</p>	3	3	<p>感染状況によるができるだけ達成できるように実施していく。週4回以上の外遊びを各クラスで考えていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で十分な取組ができなかった。 ・各クラスで大休憩にクラス遊びや外遊びを促しているが、週4回出来ていないクラス(児童)もある。達成度80% 	3	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な遊びができるような環境を整備する。 ・委員会を通して児童が主体的に遊びを考え推進していく。
			<p>生活習慣上の課題をみつけ、取り組むことができる児童を育てる。 (生活習慣)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回、生活振り返り週間を実施し、生活習慣上の課題を見つけ、改善に取り組む。 ・早寝・早起きの良さについて、学級活動(2)で自己目標を考える。 	<p>生活振りかえり週間で「決められた時刻に就寝・起床する」肯定的評価80%以上</p>	<p>自分の生活を振り返り、自分で設定した課題に向けて取り組んでいた。今後、日常的に自己課題に取り組むよう促す。 【児童回答】84.7%</p>	3	3	<p>生活振り返り週間の結果を伝え合うことで、意識づけを行う。食育と並行して早寝早起き・朝ごはんの大切さを啓発していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回取り組むが成果があまり上がっていない。 ・タブレットを使い、学校での指導を行った。 ・コロナ禍でも工夫して食育をすすめ、食の大切さを考えることができた。 ・教室での指導が難しかった。 <p>【児童回答】87.1%</p>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で自分の生活改善していく力をつける方法を考え、実行していく。
2	<p>保護者から信頼される学校にする。</p>	継続	<p>「学校へ行くのが楽しい」と感じる児童を増やす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年通信で児童のがんばりや成長、学校での取り組みをタイムリーに掲載する。 	<p>「学校へ行くのが楽しい」肯定的評価90%</p>	<p>児童のがんばりや成長をタイムリーに伝えることができた。 【児童回答】92.1%</p>	3	3	<p>児童アンケート等を活用し、学校が楽しくない原因を把握し、個に応じた指導を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に登校できない児童に対し、オンライン授業を行ったり、個別最適化学習に取り組んだりすることで、学校生活が楽しいと感じる児童 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化学習授業に対する学習意欲を高めることで、学校生活を充実したものにしてい

